

各委員意見集約

1. 教育委員会の活動状況について(原案の2～7ページ)

No	委員	意見等	区分	担当	回答等
1	伊井	昨年度の3月の臨時会議では、「新型コロナウイルス感染症対応」について話し合われています。令和2年度での対応協議がメインかと思いますが、概ねどのようなことが話されているのかをお聞かせいただけますでしょうか。	質問	総務企画課	新型コロナウイルス感染症の市内小中学校の対応について ①2月27日から3月24日までの臨時休業 ②各家庭における臨時休業中の対応(毎日の体温計測の実施など) ③臨時休業中の家庭学習(学習プリントの配布など) ④卒業式や修学旅行など学校行事 ⑤分散登校の実施 ⑥子供の緊急居場所確保対策 ⑦市内公共施設の臨時休業(市民図書館、資料館、公民館など)
2	鈴木	義務教育学校をはじめとする教育環境整備や各種事業が的確に実施されたことに敬意を表します。また、今後5年間の新教育プランによって示された目標と方向性が新時代にふさわしい教育の質的向上を目指して推進されることを期待します。	意見	総務企画課	新たな教育プランにおいても、これまでの教育理念を継承しつつ、大きく変化する社会情勢に対し、市民一人一人が主体的に社会と関わり、活力ある地域社会を創り出していくことができるよう、これからの市が目指す教育理念や方向性を明確にし、計画的に教育施策の推進を図る

2. 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性

【重点テーマ1 自ら学ぶ意欲を育てる教育】

施策(大項目)1 生きる力につながる確かな学力を育む教育の充実(原案の10～13ページ)

No	委員	意見等	区分	担当	回答等
1	伊井	指導主事・学校教育主事による学校改善の取組の成果が学力向上に繋がっている状況は高く評価できます。具体的にどのような手順を持って、学校改善に繋がっているのかを簡単に教えて下さい。	質問	次長班	指導主事や学校教育主事の指導助言が学校改善につながるサイクルをお示しいたします。 ①学校訪問等において、授業参観し授業改善に資する指導助言、各種調査結果を受けた改善の方向性についての指導助言を行います。 ②各学校では、指導助言の内容を生かした校内研究・研修、授業検討を行います。 ③各学校は、学校経営についての学校評価(中間評価、年度末評価)において、指導助言を生かした日常の授業改善、校内研究・研修内容の振り返りを行います。 ④数値化した結果をPDCAサイクルに基づき、教職員の共通理解の下で再構築していきます。 ⑤授業公開の機会に、改めて指導主事や学校教育主事による授業改善の成果と課題について指導助言させていただきます。

2	伊井	幼稚園部で実施している「預かり保育」の実態と「預かり時間」延長への対策を教えてください。	質問	総務企画課 子ども家庭課	預かり保育については、幼稚園部の教育時間(4時間)の前後に実施しており、令和元年度の年間利用実態としては延べ59,589名となります。平成30年度の60,607名と比べて減少しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響と考えられます。 また、預かり時間については、市内認定こども園では、保育所の預かり時間とほぼ同様の水準で提供しており、今後とも本市としては、補助金を交付することにより、保育体制の確保や充実を図って参ります。
3	鈴木	学校・学習指導改善や各種の連携・支援事業によって得られた成果と課題を検証・評価し、こどもの主体的な学びの質を高めるために一層の改善充実を望みます。	意見	次長班	子供の主体的な学びの質を高めるために、学校教育指導訪問・学校訪問、校長・教頭会議等で、各種事業における優れた実践や取組について情報発信をしております。
4	向田	10P最後の文にH28年度小5の算数が最低レベルであったが、R1年度中2になった時に上昇とあるが、どの様な対策を取られたのでしょうか	質問	次長班	市教委としまして、各種調査ごとに結果と課題改善策を各学校に伝え、これを受けて各学校では改善の方策をより具体化し、取組の方向性を明確化しております。この取組の成果であると考えております。

施策(大項目)2 一人ひとりを大切にしたい教育活動の充実(原案の14~15ページ)

No	委員	意見等	区分	担当	回答等
1	伊井	石狩市での優れた特別支援教育の知見・経験を、各学校のコーディネーターや特別支援学級担当教員、一般教員に幅広く共有される仕組みづくりを、今後も期待します。	意見	教育支援センター	特別支援教育相談員の学校訪問、特別支援学級担当教員・特別支援教育コーディネーターを対象とする研修会、学校管理職を加えた会議を開催するなどにより、特別支援教育の知見・経験を幅広く共有されるよう連携を強化する仕組みづくりに努めます。
2	鈴木	教育支援センターを中心に関係機関と連携して取組んで得た知見・成果を共有し、一人ひとりの思い(教育的ニーズ)に寄り添う支援のあり方を追求し一層の充実を図るよう望みます。	意見	教育支援センター	関係機関との連携により情報共有しながら、支援の必要な児童生徒の教育的ニーズを的確に把握し、寄り添う支援方法について充実できるよう努めます。

施策(大項目)3 独自性が発揮できる魅力ある学校づくりの推進(原案の15~18ページ)

No	委員	意見等	区分	担当	回答等
1	伊井	SATや支援ボランティア数の延べ人数も増え、「地域とともに歩む学校」が着実に推進されているのではと評価できます。このような地域連携に学校間・地域間の格差がないのかを教えてください。	質問	学校教育課 社会教育課	【学校教育課】 SATについては、学校規模により人数・回数に多寡はあるものの、市内全ての学校で活用されており、学校間や地域間における格差は少ないものと判断している。  【社会教育課】 学校支援地域本部事業は、多くの地域での取り組みを基本としていますが、都市化が進む地域では、地域の教育力低下が指摘されていることから、花川地区に焦点をあてて実施しています。
2	伊井	コミュニティ・スクールの先行事例2校での経験を、他の学校の準備段階にどのように参考にして行くシステムづくりが成されているのかをお聞かせください。	質問	総務企画課	コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を有機的に運用するためには、様々な要素や視点が必要であるが、特に学校長のリーダーシップが不可欠であると認識している。これまでの2校の取組経過や、管内で先行して導入している学校の取組事例等について、毎月の定例校長会議等で共有することとしている。
3	鈴木	子どもにとって魅力ある学校、保護者・地域の共感と協力を得られる教育活動の推進がより成果を収めるために、教職員が一体となって挑戦できる条件整備(協働体制・課題の精選・働き方改革・人的配置等)を図り充実されることを望みます。	意見	学校教育課	教員の長時間勤務の解消を図り、教員が心身の健康を維持しながら、教育活動に意欲的に取り組むことで、教育の質の向上や、子供たちが地域と一体となって健やかに成長できる環境づくりを図るため、平成30年12月に「石狩市立学校における働き方改革推進計画」を定め取り組んでいる。

施策(大項目)4 学校教育を推進する環境の充実(原案の19~21ページ)

No	委員	意見等	区分	担当	回答等
1	伊井	学校でのICT環境は整備されてきたものと認識していますが、児童生徒の家庭でのICT環境の実態調査は、教育委員会で実施されているのでしょうか。 家庭での環境格差が、今後、子ども達の学力格差につながらないための施策を策定されることを望みます。	質問 意見	学校教育課	令和2年5月に児童生徒の家庭におけるインターネット環境の有無について調査したところ、79%の家庭が高速のインターネット回線を所有していることが判明した。 文科省が推進するGIGAスクール構想に基づき、令和2年度において児童生徒の1人1台端末の導入のほか、貸出用のWifiルーターを購入を予定している。
2	伊井	昨年度の意見にも掲載されている、福祉と教育が連携した対応の進捗状況を簡単にお聞かせください。	質問	学校教育課 教育支援センター	【教育支援センター】 「子ども総合支援本部」に設置している教育及び福祉による協育エキスパートチームにより支援が必要な子どもを把握している。 現在、支援を必要とする子どもは19名で、定期と随時で会議を開催し、それぞれがもつ情報を共有し、状況の把握と具体的な支援の内容を検討している。 R1年度は、子ども総合支援本部会議1回、チーム会議を1回開催しています。

3	鈴木	ICT機器の配備が急速に進められつつあるが、すべての子どもが平等に学ぶことのできる環境整備と適切な運用への支援の充実を望みます。	質問	学校教育課	文科省が推進するGIGAスクール構想に基づき、令和2年度においてインターネット回線のない家庭向けの貸出用のWifiルーターを購入したほか、児童生徒の1人1台端末の導入を予定している。併せて、教員に対する研修の実施を予定している。
4	向田	「GIGAスクール構想」等は、今回のコロナ禍と同様な事態に遠隔授業が出来、今後とても重要になると思います。しかしながら、リモートではアウトプットが少ない為、リモート配信の後に小テストなどで確認、落とし込みの作業が必要だと思います。	意見	学校教育課	長期の臨時休業などで遠隔授業を行う際には、単方向の授業ではなく、双方向での形態や児童生徒のグループ内での話し合いなど、ソフトウェアの機能を活用した授業となるよう推進していく予定である。
5	向田	(生活困窮世帯の子どもに対する学習支援) 市役所の空きスペースで学習支援をしていると聞きました。空きスペースを活用して気軽に支援を受けられるスタイルは、とても良い取組だと思います。この様な活動が市全体のレベルアップになると思います。	意見	学校教育課 教育支援センター	【教育支援センター】 保健福祉部の家庭生活支援員が行っている学習支援のことと思いますが、支援を要する児童生徒や不登校児童生徒等のニーズに応じて検討したいと考えます。

【重点テーマ2 思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育】

施策(大項目)1 豊かな人間性と感性を育む教育の推進(原案の22~27ページ)

No	委員	意見等	区分	担当	回答等
1	伊井	高校受験などの影響もあり、中学生の読書離れが進行していることが数値上も明らかです。この点に対する対策事業を期待します。	意見	市民図書館	学校司書を通じて、中学校と連携を取りながら対応策を検討して参ります
2	伊井	いじめの認知件数を増やした上での、いじめの根絶を目指すという目標を報告書においても、丁寧に説明する必要があるのではないのでしょうか。そのためには、認知した後の取り組みを評価する指標も必要になると感じます。	意見	教育支援センター	分析評価(訂正) 小中併せて1,073件のいじめの認知件数となっていることは、「いじめの芽」や「いじめの兆候」を早期の段階で把握し学校組織で事案の対応にあたるという意識が醸成されてきていると評価しているが、認知したいじめの解消率が1,068件(99.5%)であるため、いじめ根絶を目指す意味からは課題が残る。  方向性(追加) 「～いじめ解決に向けたスタートラインにたつこと、そして」の後に、「いじめの根絶を目指し」を加える。  ※次年度以降、成果指標に「いじめの解消率」を追加する。

3	伊井	石狩市のSSW事業は、道内での先進事例だと聞いております。その成果をぜひ、市内外に広めていかれることを期待します。	意見	教育支援センター	学校現場と十分な連携を図りながら、児童生徒が生き生きと学校生活を送り、安心して学習できる居心地の良い学校づくりのために支援するとともに、研修会の場等を活用し、その成果を広く周知できるよう努めます。
4	鈴木	様々な体験的活動を通して得られた気づきを、自らの思いで次に繋げることのできる機会や場がより多く常設されることを望む。	意見	次長班	キャリア教育、パートナーズスクールを継続させ、これまでの学びを生かす職場体験や実習、豊かな自然体験や交流学习体験を通して、学びを深め、豊かな心の醸成を図ってまいります。
5	鈴木	不登校になりがちな児童生徒への学習権を保障する手立ての工夫など方向性に沿った支援の充実を望みます。(オンラインでの授業参加等)	意見	教育支援センター	不登校児童生徒の早期発見と未然防止の取り組みを進めながら、個々のニーズにあった支援ができるよう努めます。

施策(大項目)2 心身の健やかな成長を促す教育の推進(原案の27~31ページ)

No	委員	意見等	区分	担当	回答等
1	伊井	石狩市内の「女子」の体力・運動能力などの一層の向上を望みます。必要に応じて、専門家と連携した対策の実施を望みます。	意見	次長班	微増ではありますが、年々女子の体力の向上傾向が見られます。専門的な見地からの指導(走り方、鉄棒等)を積極的に取り入れたり、各学校で行っている「体力1校1プラン」の取組を通して、児童生徒に体を動かすことの楽しさや競い合うおもしろさ、自らの体力向上を実感できる満足感を味わわせたりするよう継続して促してまいります。
2	向田	肥満傾向が未だに続いているのは、残念です。コロナの影響でさらに運動する機会を制限され、子どもたちの身体機能と精神面が心配です。	意見	次長班	新型コロナウイルス感染症による休校期間において、6月の学校再開当初は、学校の生活リズムに慣れておらず、体力的・精神的に落ち込みが見られたようですが、現時点では、通常の様子であると学校からの報告を受けております。 中学校の体育教師による小学校の体育の授業へのかかわりや、各学校で行っている「体力1校1プラン」の取組を通して、児童生徒に体を動かすことの楽しさや競い合うおもしろさ、自らの体力向上を実感できる満足感を味わわせるよう引き続き伝えてまいります。

【重点テーマ3 地域で育ち・学び・生きる教育】

施策(大項目)1 次代を担う子どもたちの健やかな育ちの支援(原案の32～33ページ)

No	委員	意見等	区分	担当	回答等
1	伊井	地域全体で子どもを育てていくという意識が一層醸成されるシステムづくりを期待します。	意見	総務企画課 社会教育課	【社会教育課】 地域全体で子どもを育てていく意識は、地域と学校がパートナーとして、連携・協働することで、培われていくと思われまので、学校支援地域本部事業による意識の醸成を図ります。
2	鈴木	子育てに悩む親へのサポート体制を関係者と専門家との連携による一層の充実を望みます。	意見	学校教育課 教育支援センター	【学校教育課】 小学校3年生を対象としたCAPプログラムに併せて保護者を対象とした「おとなワークショップ」を開催し、地域・家庭・学校との連携や子どもの話の聞き方等についての研修を行っている。 【教育支援センター】 下段、NO. 3と同回答。
3	向田	最近、不審者情報のメールが多く、内容も子どもたちへの声掛けが大半を占めているように感じます。 子どもたちを見守るシステムやこども110番事業のさらなる充実を望みます。	意見	教育支援センター	学校、地域、市教委、関係機関が一体となりながら、「子どもの見守り活動」「スクールガード」「声かけ運動」の推進と「子ども110番」の登録者拡大を目指しながらさらなる充実を努めます。

施策(大項目)2 地域づくりに活かされる生涯学習環境の充実(原案の33～35ページ)

No	委員	意見等	区分	担当	回答等
1	伊井	コロナ禍においても、社会教育・生涯学習が持続できる工夫など、今後必要になります。学校教育と比べ、対象者が高齢となるため、インターネット上での活動は難しいと思いますが、ぜひ、前向きな取り組みが継続されるよう願っています。	意見	社会教育課	新型コロナウイルスの影響で、市民文化祭が中止になるなど、市民の芸術文化活動の発表の場を失われております。今後は、インターネットを利用し、社会教育・生涯学習を推進する方策を研究していきます。
2	鈴木	市民の多様化する学習ニーズを統合して生涯学習へと組織化するために、専門的スキルを有する人材を育成し、活動を支援する体制を充実させることを望みます。	意見	社会教育課	専門的スキルを有する人材を育成し、活動を支援する体制を充実させるため、市民の学習意欲の高揚と市民参画による新たな学習機会の創造に寄与する「いしかり市民カレッジ」を支援していきます。

施策(大項目)3 学習の拠点としての図書館サービスの充実(原案の35~37ページ)

No	委員	意見等	区分	担当	回答等
1	伊井	昨年度の意見にも含まれていますが、図書館の新たな役割を模索し、取り組みの活性化ともに、利用者数の増加を期待します。	意見	市民図書館	引き続き協働事業等を通じて市民のニーズの把握に努めながら、取り組みを活性化させ利用者数増を目指します。
2	鈴木	新刊紹介の工夫や絵本特集、〇〇特集、〇〇週間等、読書やレファレンスに興味関心を引出す蔵書や資料の展示方法の工夫・充実を望みます。	意見	市民図書館	今後も引き続き、魅力的な蔵書の充実を図り、利用者の興味関心に働きかける展示の工夫や周知に取り組んで参ります。

施策(大項目)4 石狩文化の活用による自主的・主体的活動の支援(原案の37~38ページ)

No	委員	意見等	区分	担当	回答等
1	伊井	現在の連携先だけではなく、支援対象の拡大など、幅広い市民が参画できる芸術文化活動の進行を望みます。	意見	社会教育課	石狩市文化協会への支援を継続し、石狩市民文化祭への参加者を増やすなど、芸術文化活動の振興を図ります。

施策(大項目)5 ふるさとを学び伝える取組の充実(原案の38~40ページ)

No	委員	意見等	区分	担当	回答等
1	伊井	ふるさとを学ぶためには「実物」や「体験」を通じた活動がとても重要だと思います。その一方で、コロナ禍の影響でインターネット上などの仮想空間での学びの推進の大切さも認識せざるを得ない状況にあります。それに伴う取り組みも今後、推進されることを望みます。	意見	文化財課	新型コロナの感染拡大状況を勘案しながら、「実物」が身近に感じられる展示を工夫していきます。
2	伊井	これまでの成果にも敬意を表しつつ、60周年を迎える郷土研究会の一層の発展を望みます。	意見	文化財課	郷土研究会が企画した60周年記念事業に協力、支援を行うとともに通常の活動も支援していきます。
3	鈴木	埋もれていた文化財が収集され価値が見出され保護・保存されることは大変喜ばしいことです。今後さらに、官民連携協力によって系統的に整備され人々の学習に供されることを望みます。	意見	文化財課	石狩ファイルなど市民との協働により市内の文化財に関する資料の作成を進めるとともに、学校などに資料の提供を進めていきます。